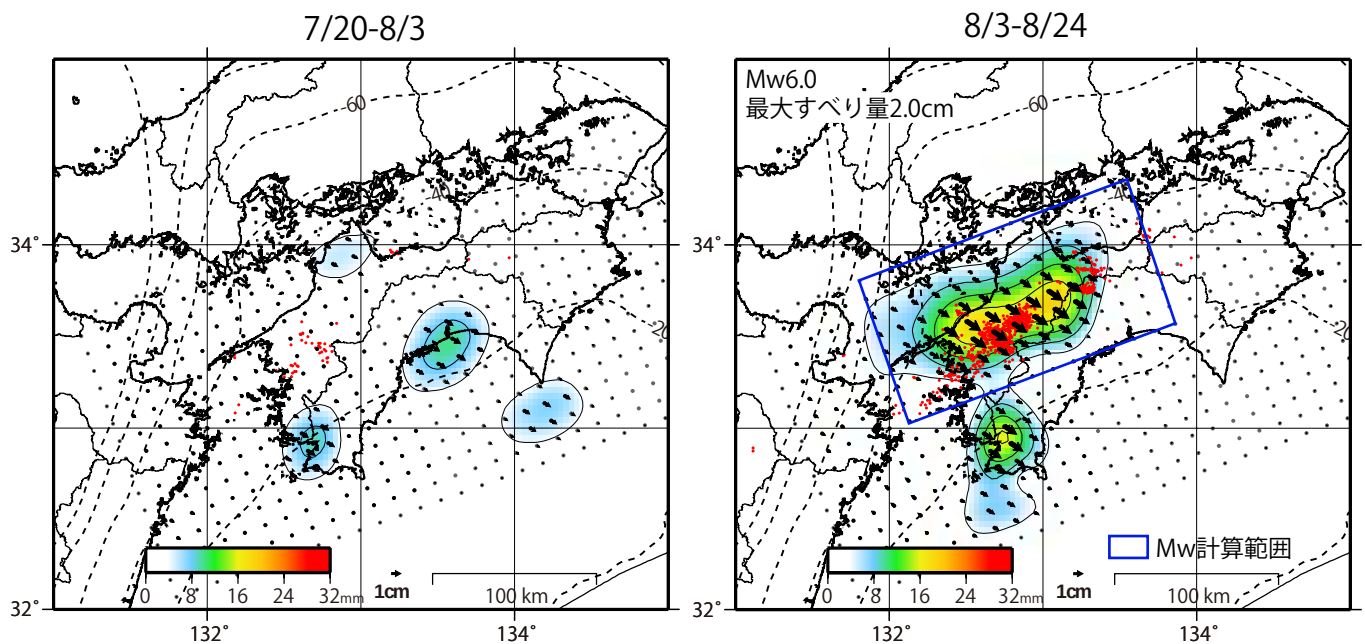
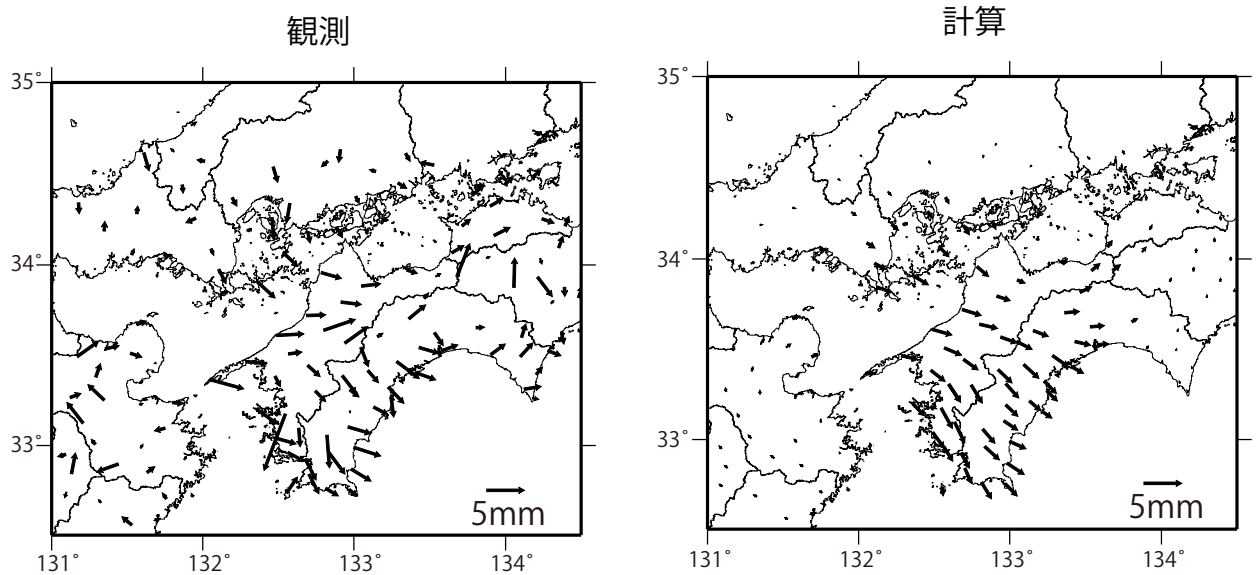


GNSSデータから推定された
四国地方の深部低周波微動と同期したスロースリップ(暫定)



推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色表示



解析に使用した全観測点の座標時系列から共通に含まれる
時間変化成分を取り除き、7/22 - 8/1の平均と8/24 - 8/31の
平均の差をとった値

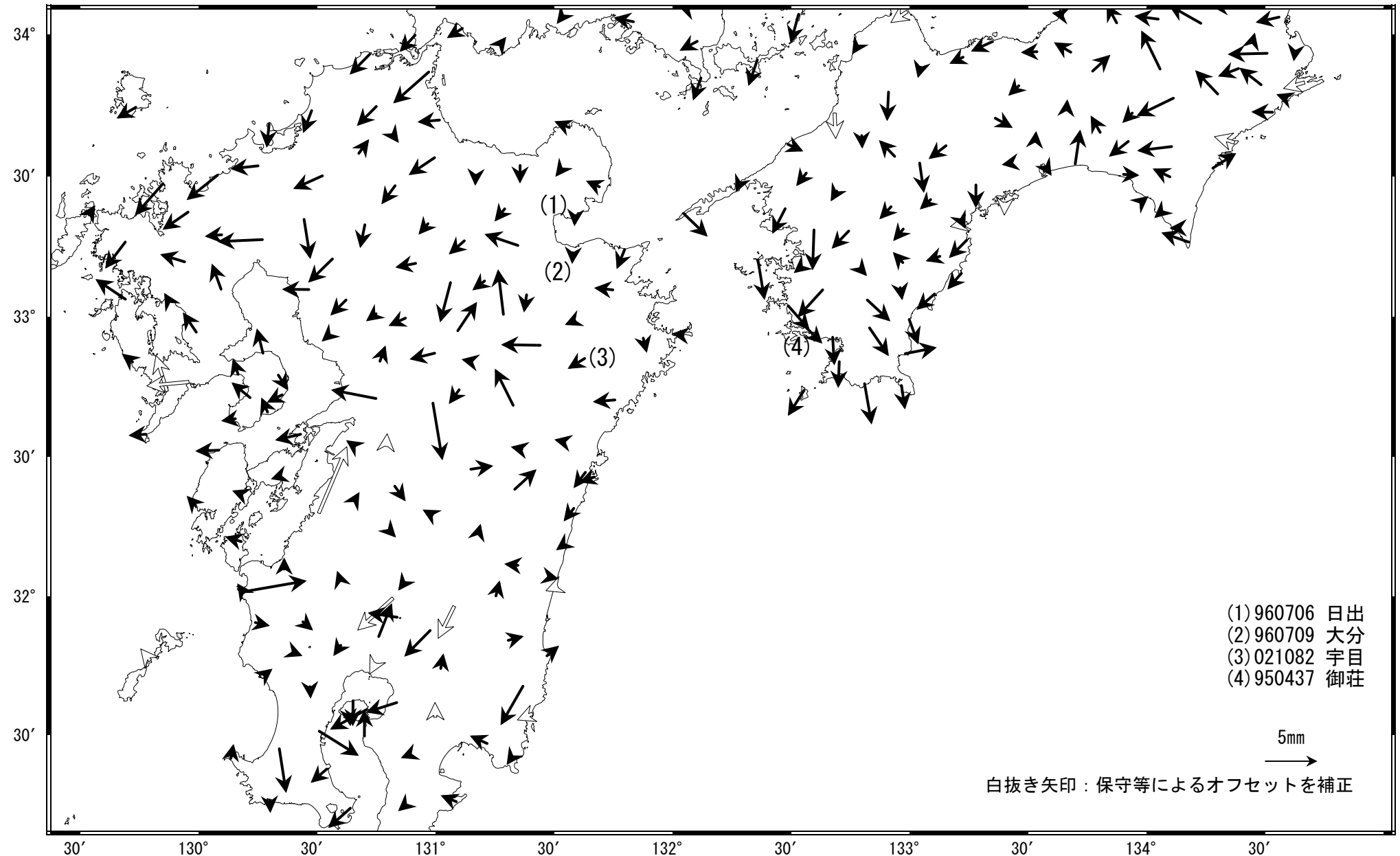
解析に使用した観測点の範囲: 概ね北緯32~34.6°、東経131~134.8°
データ: F3解(2019/7/1 - 8/17)+R3解(2019/8/18 - 8/31)
トレンド期間: 2006/1/1 - 2009/1/1
黒破線: フィリピン海プレート上面の等深線(弘瀬・他, 2007)
赤丸: 低周波地震(気象庁一元化震源)
コンター間隔: 4mm
固定局: 三隅

九州北部・四国西部の非定常水平地殻変動(1次トレンド・年周期・半年周期除去後)

基準期間: 2019/06/04~2019/06/10[F3: 最終解]

比較期間: 2019/08/19~2019/08/25[R3: 速報解]

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01



☆ 固定局: 福江 (950462)

国土地理院

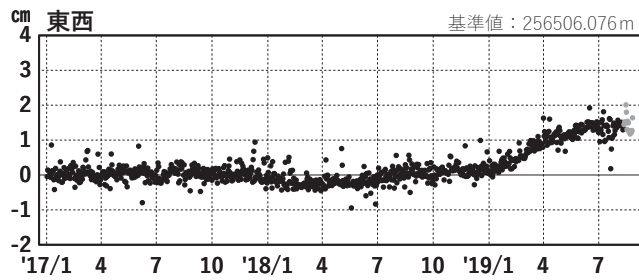
九州北部・四国西部 G N S S 連続観測時系列

1 次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

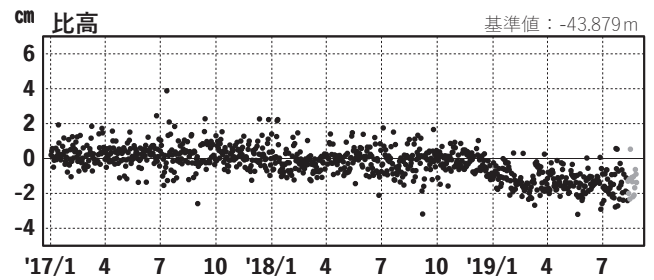
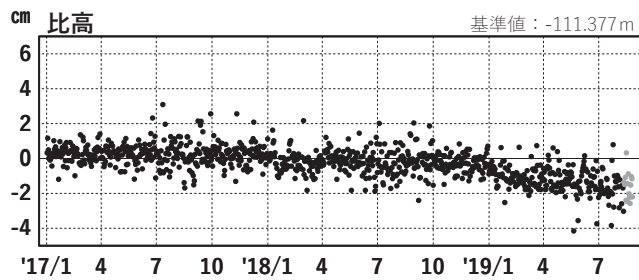
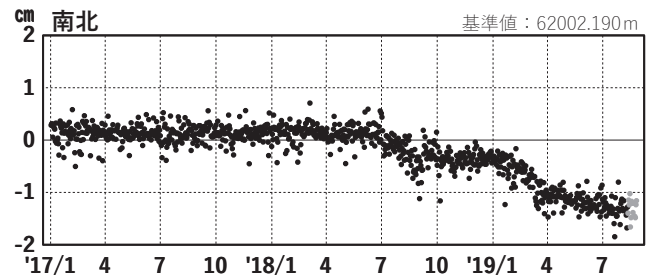
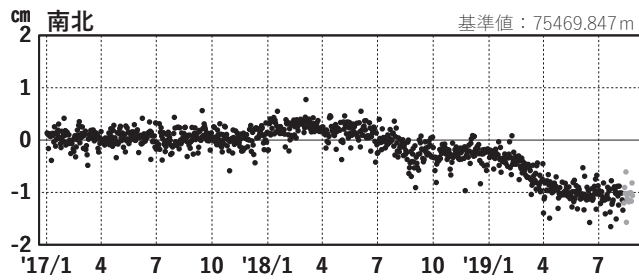
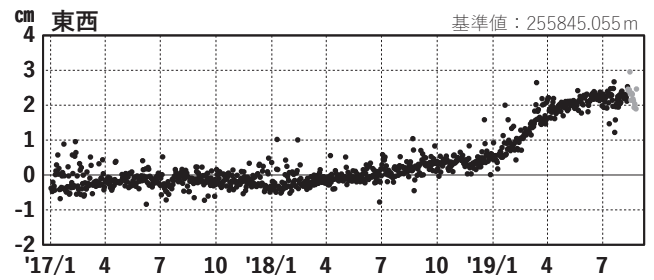
期間: 2017/01/01~2019/08/26 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01

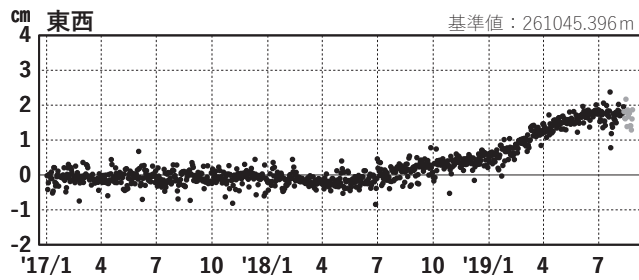
(1) 福江(950462)→日出(960706)



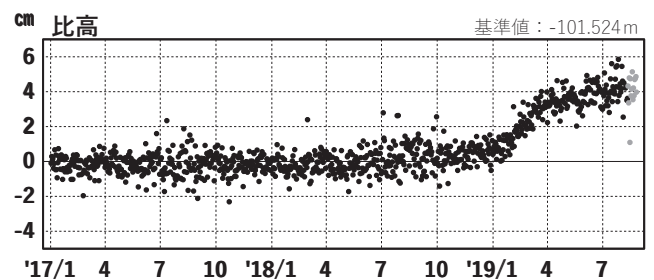
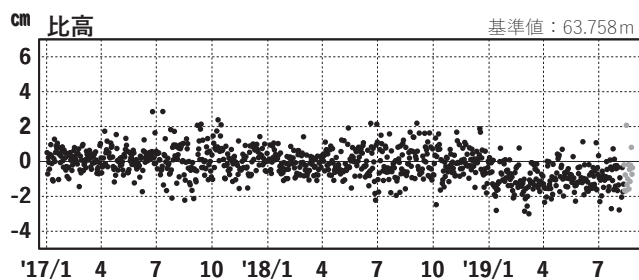
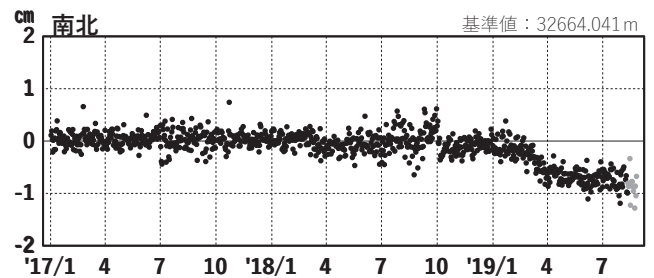
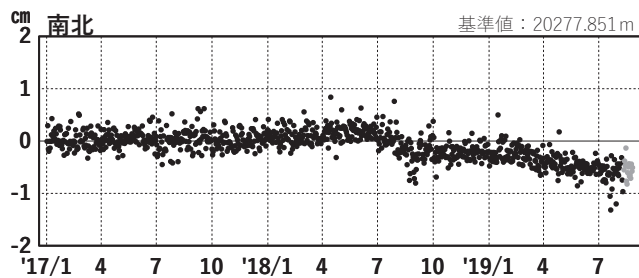
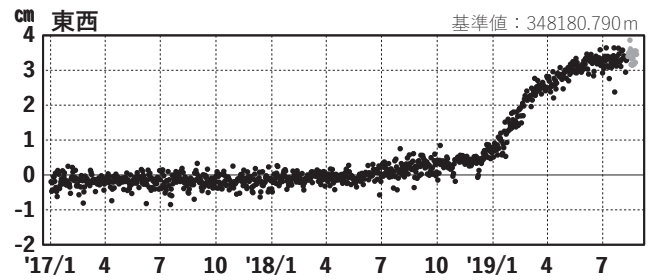
(2) 福江(950462)→大分(960709)



(3) 福江(950462)→宇目(021082)



(4) 福江(950462)→御荘(950437)

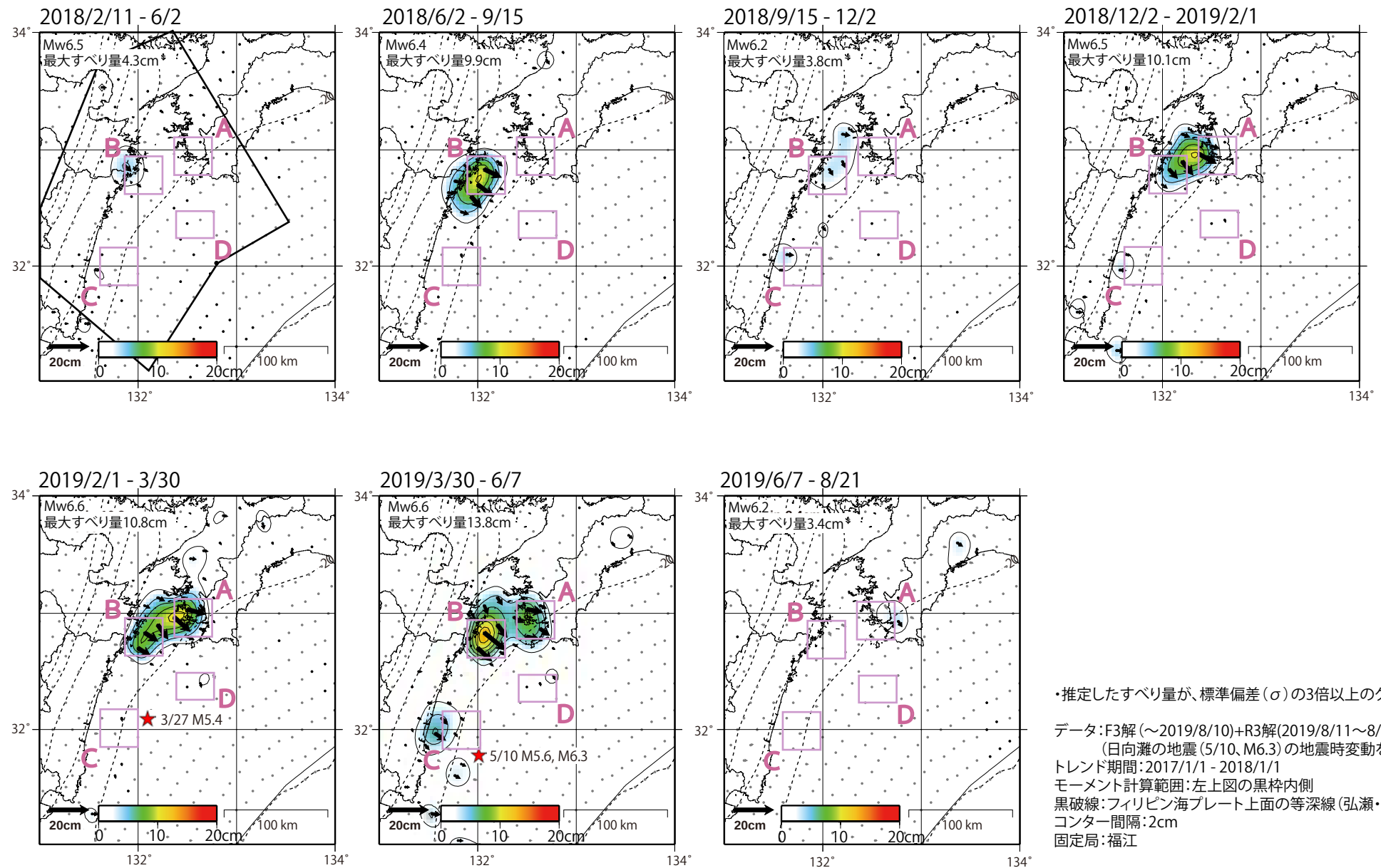


●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

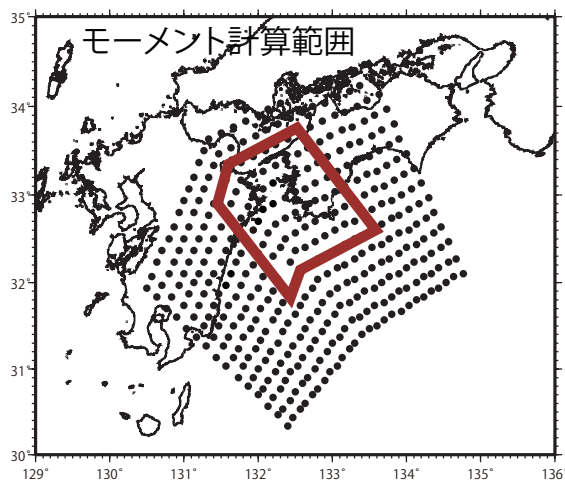
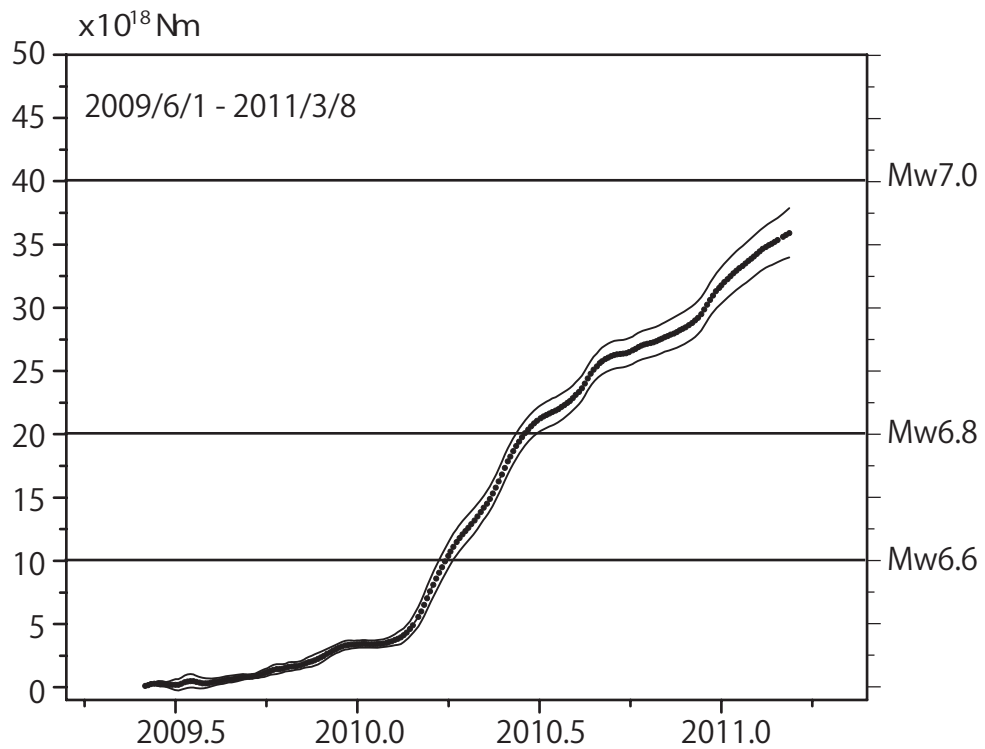
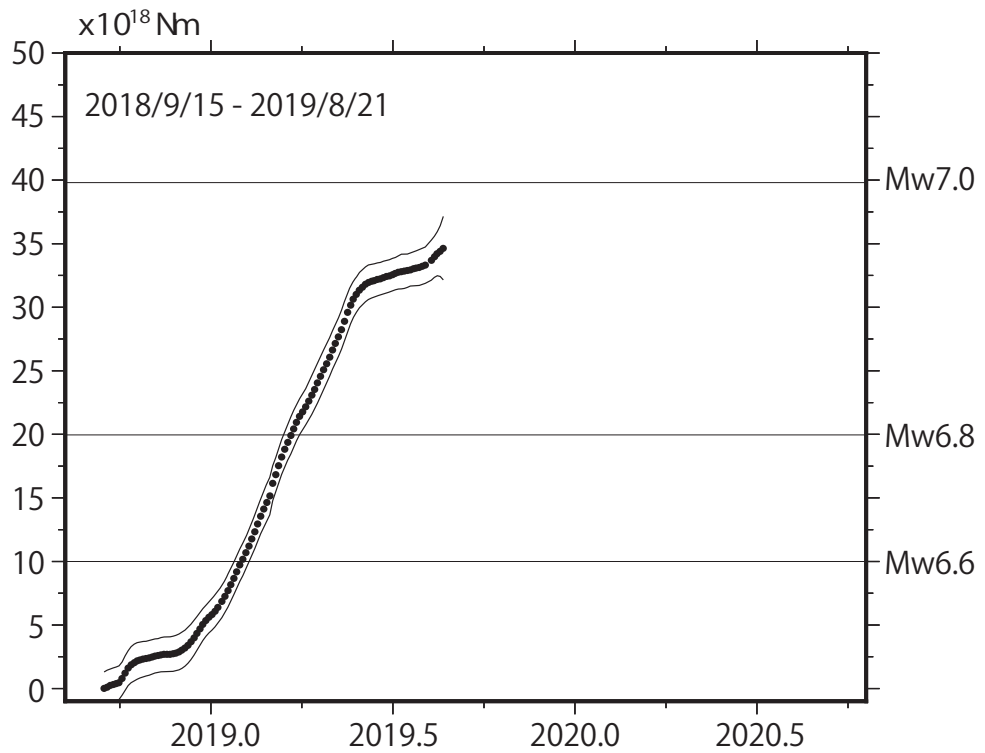
国土地理院

GNSSデータから推定された日向灘・豊後水道の長期的ゆっくりすべり(暫定)

推定すべり分布



モーメント※ 積算図(試算)



モーメント積算図には、標準偏差 (σ) の3倍を誤差として表示。

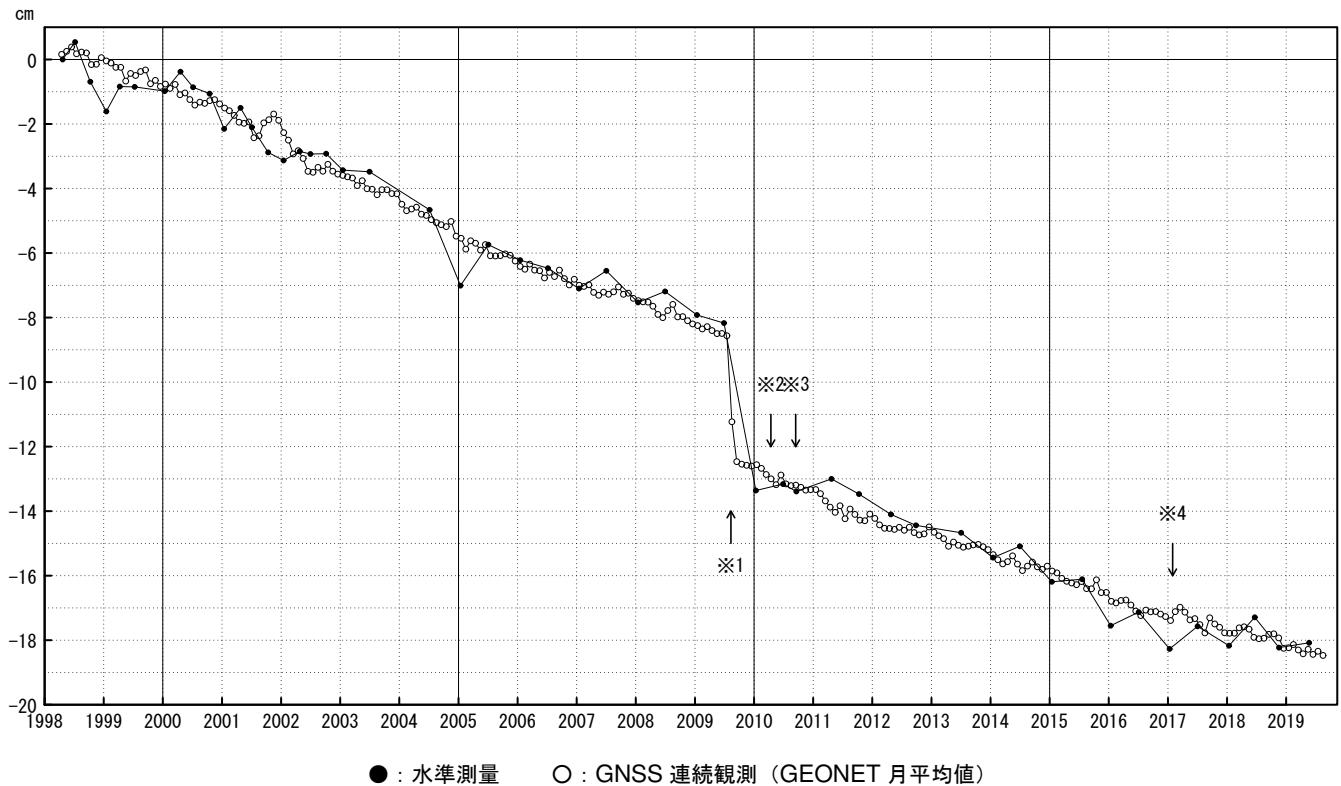
※モーメント
断層運動のエネルギーの目安となる量。
地震の場合のMw (モーメント・マグニチュード)
に換算できる。

御前崎 電子基準点の上下変動

水準測量と GNSS 連続観測

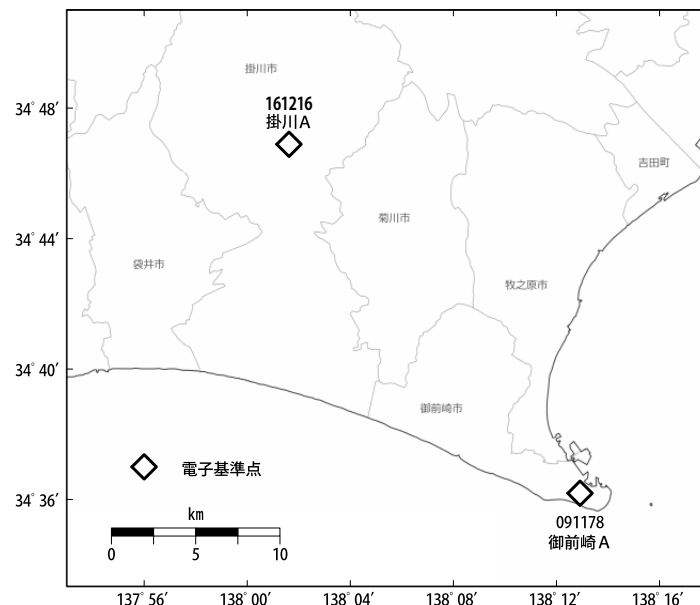
掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



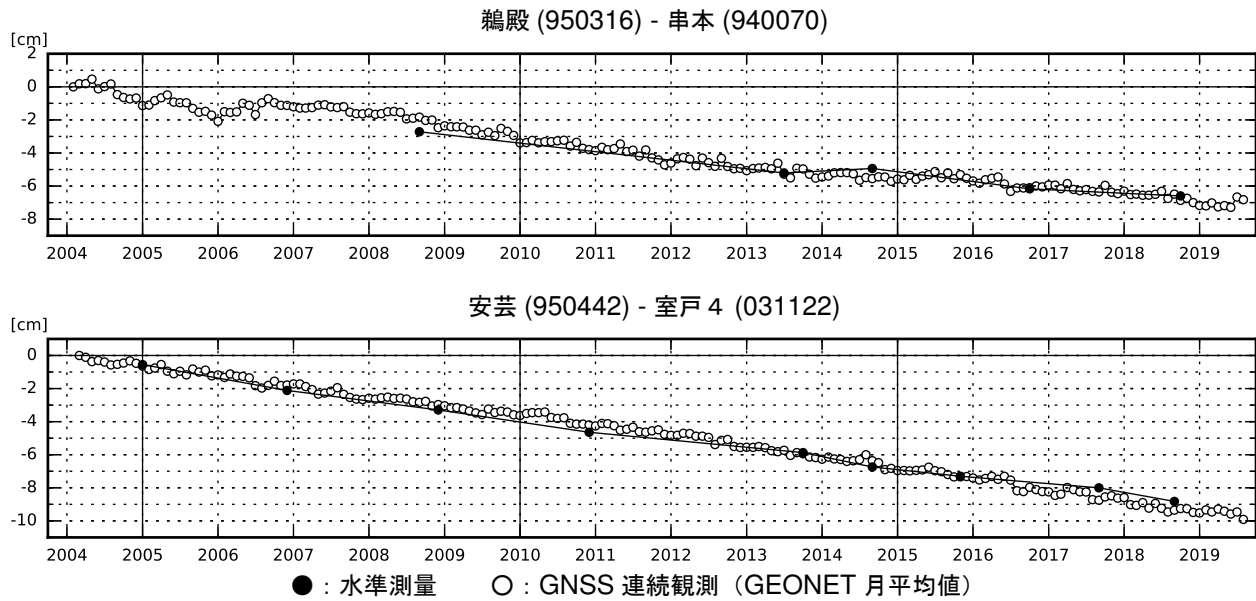
・ 最新のプロット点は 08/01~08/10 の平均。

- ※1 電子基準点「御前崎」は 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震 (M6.5) に伴い、地表付近の局所的な変動の影響を受けた。
- ※2 2010 年 4 月以降は、電子基準点「御前崎」をより地盤の安定している場所に移転し、電子基準点「御前崎 A」とした。上記グラフは電子基準点「御前崎」と電子基準点「御前崎 A」のデータを接続して表示している。
- ※3 水準測量の結果は移転後初めて変動量が計算できる 2010 年 9 月から表示している。
- ※4 2017 年 1 月 30 日以降は、電子基準点「掛川」は移転し、電子基準点「掛川 A」とした。上記グラフは電子基準点「掛川」と電子基準点「掛川 A」のデータを接続して表示している。

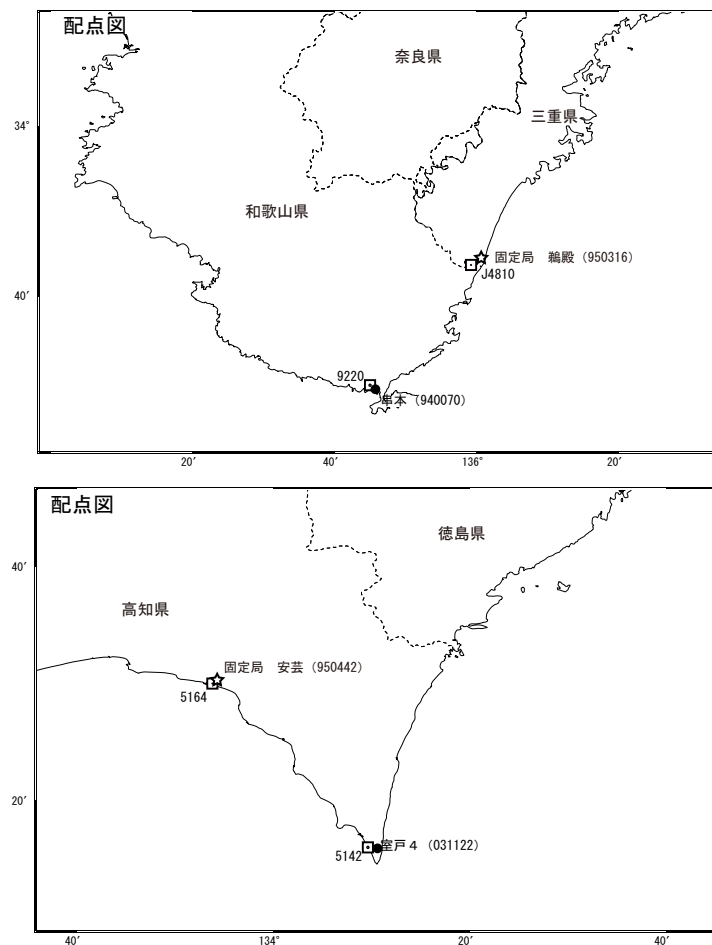


紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

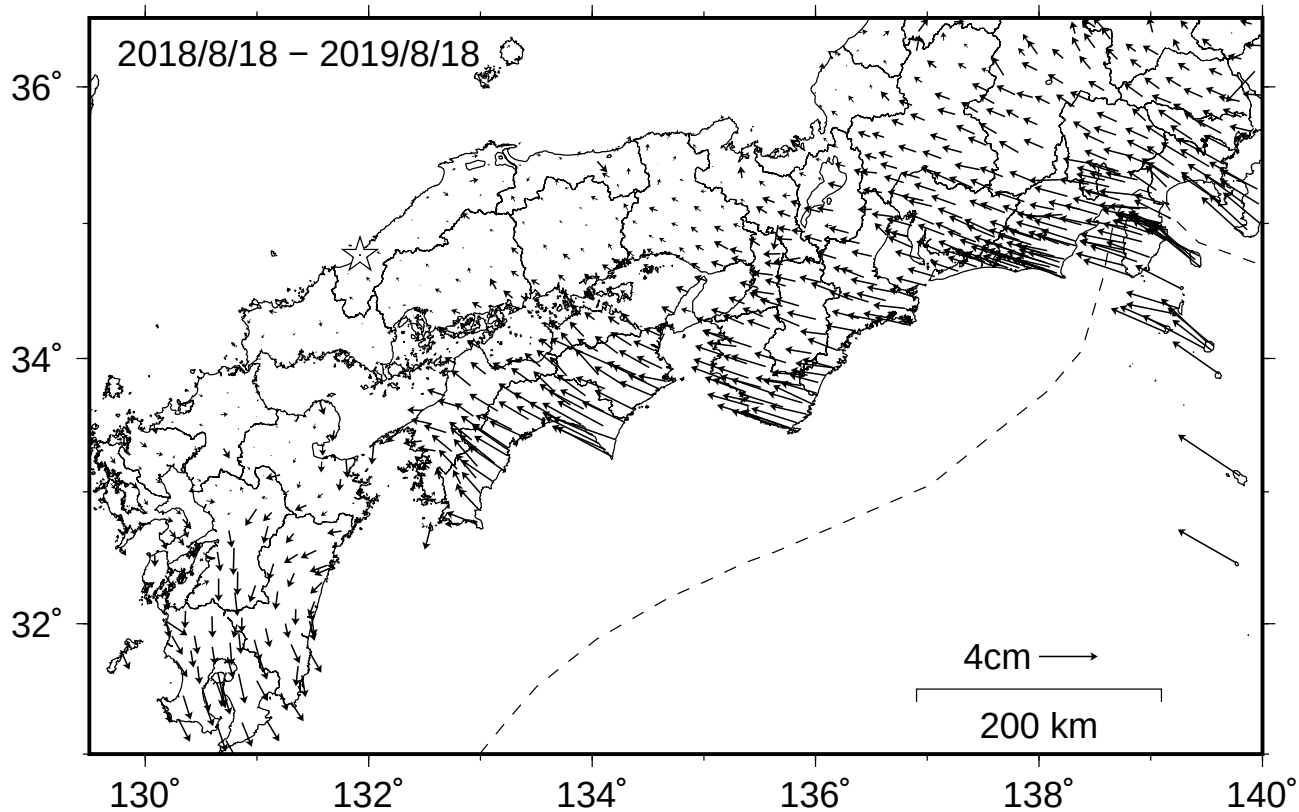


- ・ 最新のプロット点は 8/1～8/10 の平均。
- ・ 水準測量による結果については、最寄りの一等水準点の結果を表示している。

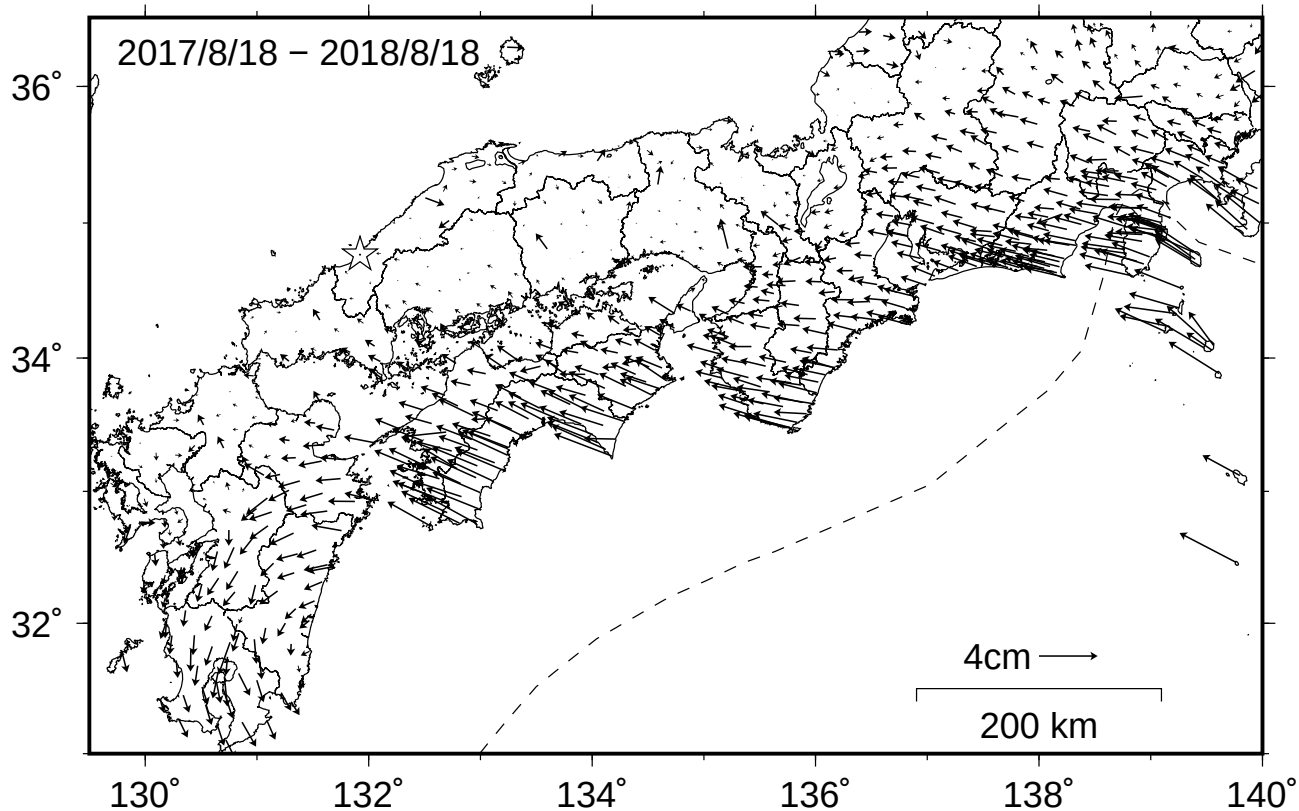


南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近1年間】



【1年前の1年間】



・各日付から6日間の変動量の平均をとり、その差から1年間の変動量を示している。